

主権者教育の一環としての模擬選挙の実施Ⅲ

隅 田 久 文

【抄録】 選挙権年齢が満18歳以上へ引き下げられたことにより、学校現場における主権者教育のより一層の充実が求められているが、本校では、2016年度の参議院議員通常選挙以降、実際の選挙に合わせた模擬選挙を実施しており、2017年10月の衆議院議員総選挙においても模擬選挙を計画し、実行した。

【キーワード】 主権者教育 模擬選挙 衆議院議員総選挙

1. はじめに

2015年の公職選挙法改正により、選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられ（2016年6月施行）、2016年の第24回参議院議員通常選挙以降、実際に選挙権を得た高校3年生が一票を投ずる光景が当たり前ものとなった。また、2018年7月には改正民法が成立し、2022年には成人年齢が満18歳に引き下げられることになった。主権者教育のさらなる充実が求められている。

筆者は、実際の選挙に合わせた模擬選挙を2016年7月の第24回参議院議員通常選挙（注1）および2017年4月の名古屋市長選挙（注2）において実施した。2017年10月に第3弾として、衆議院議員総選挙における模擬選挙を実施することを企図し、実施した。本稿は、主権者教育の一環としての衆議院議員総選挙における模擬選挙の実践報告が中心となっている。なお、過去の模擬選挙においても活用した、総務省・文部科学省作成の主権者教育用副教材『私たちが拓く日本の未来』（以下、「副教材」と言う。）を今回も活用した。

2. 衆議院議員総選挙に合わせた模擬選挙の計画・実施

2017年10月22日（日）に投開票が行われた第48回衆議院議員総選挙に合わせて、選挙期間中に模擬選挙を実施した。詳細は以下のとおりである。

（1）実施の目的（生徒に示したものである）

若年層を中心に投票率の低下傾向がうかがえる中、今日の民主政治について、生徒自身が考え公正に判断できるようにするため、模擬選挙の機会を通して政治への関心を高め、良識ある公民として必要な能力と態度を育成する。

（2）実施の概要

1) 対象

筆者が授業を担当している中学3年生・高校2年生全員（約200名）を対象とした。

2) 校内投票日

10月17日（火）、18日（水）、20日（金）の昼休み及び放課後に実施した。実際に投票に赴くということを体感させるために、授業時間外に実施をした。また、委員会活動や部活動等で投票に行きづらくなることを避けるために、参議院議員選挙の模擬選挙の時と同様、投票日を3日間設定した。

3) 投票内容

参議院議員選挙の模擬選挙の際には愛知県選挙区（定数4）の模擬選挙を実施した点、また本校生徒は通学圏が広く、小選挙区の場合実施が想定される学校所在地の愛知2区（名古屋市千種区・名東区・守山区）以外に住む生徒も多いという点を踏まえ、今回は小選挙区は実施せずに比例東海ブロック（定数21）のみ実施した。

4) 投票所

より実際の投票所の雰囲気近づけるために第1会議室を使用した。また、副教材に投票所における投票の流れがイラストで掲載されていることも踏まえ、実際の流れにできるだけ近づけた。さらに、実際の選挙で使うアルミ製の投票箱（2016年度購入）を使用した。

5) 投開票に関わる作業

選挙管理委員・社会科系の生徒に協力を仰ぎ、投票所の運営（名簿対照係・投票用紙交付係・投票立会人・投票管理者）および開票作業を担わせた。開票作業は、実際の選挙の当選者が確定した後の10月23日（月）に実施し、後日全生徒に投票結果を公表した。

6) 外部機関との連携

名古屋市選挙管理委員会に実施の上で助言を仰ぐと

ともに、生徒分の選挙公報の提供を受けた。また、模擬選挙推進ネットワークが、ウェブ上で無償提供を行っている模擬選挙用の投票用紙を活用した。また、本校の投票結果については模擬選挙推進ネットワークに情報提供した。

7) 留意点

- ・ 民主的な選挙の4原則（普通・平等・直接・秘密）の遵守を徹底した。
- ・ 保護者向け案内文書を作成、配布した。その際、副教材配布時に教員に配布された『活用のための指導資料』に記載されている「保護者向けお知らせの例」を参考に作成した。
- ・ 実施の上で、公職選挙法等の趣旨を踏まえ、政治的中立性を確保すべく配慮するとともに、生徒へも事前指導を行った。

8) 模擬選挙実施スケジュール

10月11日 (水)	保護者向け案内文書配布
10月13日 (金)	係生徒打ち合わせ
10月16日 (月)	選挙公報受け取り (名古屋市選挙管理委員会より)
10月17日 (火)	投票所入場整理券配布 高2は選挙公報配布 中3は授業時に選挙公報閲覧 模擬選挙1日目
10月18日 (水)	模擬選挙2日目
10月20日 (金)	模擬選挙3日目 (最終日)
10月22日 (日)	第48回衆議院議員総選挙
10月23日 (月)	開票作業
10月25日 (水)	結果公表

9) 事前指導

模擬選挙をする上では事前指導が欠かせないが、今回は新年度すぐに名古屋市長選挙の模擬選挙を実施したこともあり、比較的簡素に事前指導を行うことができた。具体的な内容としては、衆議院の解散から衆院選告示に至るまでの政局関連の新聞記事のコピーを配布したり、選挙のしくみについて授業で簡単な解説を行った。また、投票先を決めるための材料として「毎日新聞ポータルマッチえらぼーと」「Yahoo!みんなの政治」「政治山 重点政策・公約比較表」などのサイトを紹介し、生徒が自ら判断することを促した。

(3) 模擬選挙の結果

1) 投票率

クラス	1日目終了時	2日目終了時	最終日終了時
J 3 A	62.5%	77.5%	100.0%
J 3 B	55.0%	62.5%	92.5%
S 2 A	65.0%	77.5%	100.0%
S 2 B	62.5%	70.0%	97.5%
S 2 C	25.6%	62.5%	92.3%
全体	54.3%	70.4%	96.5%

高校2年生にとっては、参院選・名古屋市長選挙に続いて3回目、中学3年生にとっても名古屋市長選挙に続いて2度目の模擬選挙ということで筆者はマンネリ化を危惧していたが、1日目から投票の出足は好調で全体の投票率は54.3%と、参院選模擬選挙の1日目投票率46.8%を上回る結果となった。最終的に全体の投票率は96.5%を記録した。

また、最後の日まで選挙公報や新聞記事を見ながら投票先を真剣に選ぶ生徒も見受けられた。

2) 投票結果

	模擬選挙の結果	実際の選挙結果
自由民主党	32.8% (8)	33.2% (8)
希望の党	20.8% (5)	21.5% (5)
立憲民主党	19.3% (4)	21.1% (4)
日本共産党	9.9% (2)	6.7% (1)
幸福実現党	7.8% (1)	0.6% (0)
日本維新の会	5.2% (1)	4.4% (1)
公明党	2.6% (0)	11.6% (2)
社会民主党	1.6% (0)	1.0% (0)

※パーセントで示した数値は得票率、()内の数字はドント式を用いて算出した獲得議席である。また、上記得票率には無効票を含めていない。(注3)

投票結果を見ると、上位3党の得票率については実際の選挙結果と大差がなく、獲得議席も同じ数となった。一方、得票率4位以下については実際の選挙結果とは異なる結果が見られた。実際の結果と比較すると日本共産党・幸福実現党の得票率が数%高かったのに対して、公明党の得票率の低さが際立った。参院選模擬選挙の際には、公明党の候補は全9候補者中2位という結果(実際の選挙結果は3位)であったことと比較しても注目すべき結果となった。

過去の模擬選挙では、おおむね実際の選挙結果と類似した結果になる点と、実際の選挙ではあまり票が獲得できなかった候補(国政における比例区の場合は、小規模政党)の得票率が模擬選挙ではやや高くなる点の2つの傾向が見られたが、今回もそのような傾向が見られたと言える。

また、2017年4月に実施した名古屋市長選挙模擬選挙

では、公民的分野を履修し始めたばかりの中学3年生の無効票が多く出たが、今回は2学年合わせて無効票が1票にとどまった。中学3年生が公民的分野を履修して半年を経過したことも一因と言えよう。

3) 生徒の感想

- ・本当に選挙に行ったときに何に注目して投票すればいいのかを学ぶことができてよかった。
- ・若者の選挙への関心を高める良い機会だと思う。
- ・実際の投票用紙が見てみたかった。今度授業等で見せてほしい
- ・小選挙区と国民審査も行いたい
- ・一度全学年で模擬選挙をやってほしい
- ・投票できるようになったら自分の一票に責任を持って必ず投票に行くようにしたい
- ・模擬選挙があったことで、家族と選挙について話すことも増え、政治への関心が非常に高まった。
- ・今回投票を行ったことで、いつもならTVが選挙ばかりで嫌になるけど、見るようになって少し興味が持てるようになった。
- ・「学校でやったから！」と言って親にも投票を促した。
- ・選挙権を持ったら選挙に行きたいなという気持ちが高まった。
- ・正直政党の政策なんて実現されないから全く興味がないので大人になっても選挙に行かない。
- ・投票所が遠かったら行かないだろうなと思った。
- ・選挙に行くことは良いことだと思うけど、模擬選挙は参加が義務付けられる感じがする（実際そうじゃないのは知っているけど）
- ・もしこの模擬選挙がなかったら、どんな党があるのかも知らないで終わっていたと思うから、選挙と関わる良い機会になったと思うし、またやりたいと思った
- ・どこの党もあまりぱっとしなくて、若者の関心が低かったり、選挙に行かない理由がなんとなくわかった。
- ・普段はあまり関心がないので、道で演説している人の話は聞き流していたが、今回はじめてちゃんと人の話を聞いた。意外とおもしろかった。
- ・何の印象も残っていない
- ・模擬選挙をしたことで、選挙に対する関心が高まった。昨日のニュースもばっちり見ました。
- ・来年18歳になると考えると、自分の意見を主張しなければいけないと改めて強く思った。これからより吟味して投票できるよう意識したい。このような機会を与えていただきありがとうございます。
- ・投票って意外とあっけない
- ・自分が投票に行ったか行っていないかが分かるのがいやだった
- ・模擬選挙があったことで政党の主張とかを比較したり、政治のことを考えたりできたのでよかった。
- ・あまり関心がない人は適当に選挙に来てあまり意味がないなど。
- ・毎回やればいいと思う。すべての学校でやれば、今後選挙権を得る子どもたちの投票率が上がるのでは。
- ・自分の兄は毎年選挙に行っていないから教えてやろうと思った。
- ・親と選挙について話す機会が作れた。
- ・白票にしたいと思うぐらい実際の政治には選択肢がないのだと改めて痛感した。
- ・投票する時に少しドキドキした。
- ・大人になった気分を味わえた。
- ・自分と意見が違う人がいて、支持する政党は人によって違うことを知った。
- ・楽しかった。
- ・投票する時間が少なかった気がする。
- ・自分の意見を政治に反映させるということは、国民の義務だと思った。
- ・何も思わなかった
- ・楽しく政治に興味を持てた。選挙速報も楽しく見れた。
- ・本物っぽい投票箱に投票するのが楽しかった。実際の時はもっと考えたい。
- ・将来が楽しみ
- ・思ったよりも簡単だったので、自分が大人になったら、時間を惜しまずに投票に行って、より良い日本にしてほしいと思った。
- ・何を選べばよいか分からなかった。
- ・選挙公報を見て自分の1票の重さが分かった。適当に選ぶのも投票しないのもあり得ないと思った。選挙権を持ったらその権利をちゃんと使おうと思った。
- ・ニュースでは伝えられていない情報を知ることができて面白かった。
- ・初めて自分も日本の国民だと実感した。
- ・おおざっぱにしか知らない党もあり、今回の模擬選挙でどんな党がどんな目標を立ててこの国を動かそうとしているのかがわかって、とても勉強になった。
- ・選挙って意外とわくわくする
- ・新聞や選挙公報だけでは、立候補者のことが思ったより分からないことが分かった。
- ・いずれは自分も本当の選挙をするんだろうなあという実感が湧いた。
- ・自分の兄は毎年選挙に行っていないから教えてやろうと思った。
- ・選挙の特番を見るようになった。街頭演説を初めて立ち止まって聞いた。
- ・親と選挙について話す機会が作れた。
- ・中学生のうちからこうやって模擬選挙を行うことはとても大切だと思った。
- ・正直今回の（実際の）投票率を見てがっかりした。せ

めて80%は行ってほしかった。

- ・元々関心はあったが、授業で学ぶことで理解が深まり興味が出た。実際のものに近い体験ができたのは良い経験だったと思う。
- ・投票箱に用紙を入れる時異常なくらいテンションが上がった(箱がリアル)。意外と短時間であっさり終わってしまった。
- ・私の周りの大人は選挙にあまり行かないので関心がなかったが、今回の模擬選挙でとても政治に興味を持った。

3. まとめ

(1) 模擬選挙の振り返り

実際の選挙に合わせての模擬選挙は今回で3度目、投票所も設営し授業外で行う形式としても2度目の実施であったが、これまでのノウハウが蓄積されてきたことから運営上大きなトラブルは起こらず、社会科係・選挙管理委員の生徒の協力も得ながら滞りなく実施することができた。

生徒の感想を見ても前向きな回答が多く見られた。印象的な回答としては「投票を体感することで当事者意識を持てるようになった」「選挙が家庭での話題となった」「選挙報道や街頭演説への関心が高まった」「早く選挙権を持ちたい」「政党の政策の違いを知れた」などが挙げられる。模擬選挙等の学習は単なる体験に終わっているという見方もあるが、これらの回答を見ると、生徒にとって、模擬選挙は単なる体験にとどまらずに自ら考え、判断する機会になっていると言えよう。選挙は面倒くさいものではなく、意義のあるもの、そしてある意味では楽しいものという感覚を若年層に抱かせることが、投票率向上にもつながるのではないかと筆者は考える。

(2) 課題

課題としては、まず、前稿・前々稿でも指摘したが、「実際の選挙」は、学校現場にとって都合の良いタイミングで行われるとは限らないことである(注4)。特に衆議院の場合は、解散時期が時の政治状況により定まることから、学校現場サイドから見ると「突然」選挙がやってくることになる。今回も学校行事の多い秋の選挙となり、学校によっては実施を断念せざるを得なかったことようである(注5)。今回の場合、本校では実施ができたが、時期によっては選挙後に授業等で模擬選挙を行うことも検討せざるを得なくなるであろう。また、2017年は名古屋市長選挙・衆議院議員総選挙といわば選挙イヤーとなったが、2018年は名古屋では大型選挙の実施予定がない。こうした場合にどのような取り組みをしていくかを検討していくのも今後の課題と言える。

二点目としては、模擬選挙などの主権者教育の取り組

みの濃淡が学校間格差を生むのではないかという懸念である。たとえば、本校の高校3年生(当時)に取ったアンケート調査では、2016年の参院選の投票率が83.7%、2017年の衆院選の投票率が84.6%であった。2016年度・17年度の高校3年生は実際の選挙に合わせた模擬選挙を経験していない学年であったが、アンケートを見ると生徒の選挙への関心は高く、そのことが投票率に反映されたと言える。少し古いが平成28年実施の主権者教育実施状況調査を見ると、主権者教育を実施する予定の学校は高校3学年ともに9割を超えるが、指導時間に5時間以上かける予定の学校は全体の1割程度、「模擬選挙等の実践的な学習活動」を実施する予定の学校は全体の3割台にとどまっている(注6)。このことが、政治への関心の有無や投票率の学校間格差となって現れるのではないだろうかと筆者は懸念している。模擬選挙はあくまでも一つの手段であるが、新学習指導要領で新たに設定される「公共」の授業等を活用して、全国津々浦々で生徒たちが現実政治について自ら考え、判断する機会を設ける必要があると考える。

(3) 最後に

2016年度より本校では実際の選挙に合わせて3回の模擬選挙を実施し、一定の成果を得ることができた。取り組みを通して筆者が常に感じてきたのは、生徒たちと政治の距離感である。主権者教育の目的はこの距離感を縮めていくことにあるのではないだろうか。次に想定している取り組みは、自らの町の課題に気づき、解決策を考えていくことである。2017年度より、「名古屋の観光客を増やす方策」について考える授業を試行的に取り入れているが、このような取り組みについても継続して実践していきたい。

【参考文献】

総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来』、2015年
 総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来 活用のための指導資料』、2015年
 林大介『「18歳選挙権」で社会はどう変わるか』集英社新書、2016年

【参考サイト】

模擬選挙推進ネットワーク (<http://www.mogisenkyo.com>)
 総務省 (<http://www.soumu.go.jp>)
 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp>)
 政治山 (<https://seijiyama.jp>)
 Yahoo!みんなの政治 (<https://seiji.yahoo.co.jp>)
 毎日新聞ポータルマッチ衆院選えらぼーと2017 (<https://vote.mainichi.jp/48shu/>)
 名古屋市市政情報 (<http://www.city.nagoya.jp/shisei/index.html>)
 愛知県選挙管理委員会 (<http://www.pref.aichi.jp/senkyo>)

【注】

(1) 詳細は隅田久文「主権者教育の一環としての模擬選挙

の実施」名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要第61集、2016年

- (2) 詳細は隅田久文「主権者教育の一環としての模擬選挙の実施Ⅱ」名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要第62集、2017年
- (3) 本表の実際の選挙結果は、比例東海ブロックの開票結果である。総務省が公表しているデータを元に得票率を算出した。
- (4) 注1、注2に同じ
- (5) 「6,213人が投票した『第48回衆議院議員総選挙・模擬選挙2017』の結果（暫定）について」模擬選挙推進ネットワーク、2017年
- (6) 「主権者教育（政治的教養の教育）実施状況調査について」文部科学省、2016年

